

# 1. 平成 29 年度 女性のための防災・減災リーダー養成講座 及び防災講演会

特定非営利活動法人 御前崎災害支援ネットワーク  
代表 落合 美恵子

## 1. 事業目的

地震や台風などの自然災害が毎年のように巨大化していく中、防災・減災の場に、女性の視点で活躍できる人材を育成する目的で開催します。

特に避難所や避難生活の中で支援を必要とする要配慮者と言われる妊婦や障がい者は、男性中心の自主防災組織では対応が困難です。

高度な知識や先駆的な訓練経験が豊富な女性が避難所を運営することにより、一般の人たちだけでなく、要配慮者や障がい者など、避難生活において男性には気が付かないきめ細かな支援ができます。

また、発災前の段階から防災減災活動や防災訓練の企画、計画ができるリーダーを育成し、地域の防災減災の担い手となり、県民市民への啓蒙活動ができる人材を育成することもできます。

同時に、避難者として参加する障がい者や家族の防災減災に対する意識の向上や、自助・共助の推進を図ることもできます。

県民に広く女性リーダーを認識していただくには長期に亘り事業の実施を継続する必要があります、10年間で1,000名以上のリーダーを育成していくことを目的とする事業です。

## 2. 事業内容

2日間の受講を原則として、専門性の高い講師より講義を受ける授業と、受講者や講師と共にグループワークを実施、避難所運営では避難者の受入実践を実施。

避難者にはQRコードを付与して一人一人を管理するなど画期的なシステムを体験し、将来の避難所運営に活かしていく内容。

## 3. 実施日時

平成 29 年 9 月 30 日（土）8：45～17：00

平成 29 年 10 月 1 日（日）9：00～16：00

## 4. 実施場所

御前崎市佐倉公民館及びさくらんぼホール

## 5. 対象者

防災・減災に関心のある中学生以上の女性(男性可)

## 6. 参加人数

養成講座 76 名 防災講演会 約 150 名  
(地区別)

清水町 1 名 三島市 1 名 富士市 2 名  
静岡市葵区 3 名 静岡市駿河区 7 名  
静岡市清水区 2 名 川根本町 1 名  
藤枝市 4 名 島田市 4 名 焼津市 2 名

吉田町 1名 牧之原市 1名 御前崎市 13名  
掛川市 4名 袋井市 1名 磐田市 3名  
森町 1名 浜松市浜北区 3名  
浜松市天竜区 3名 湖西市 4名  
岩手県陸前高田市 1名  
三重県松阪市 1名 岐阜県岐阜市 2名  
ネットワークスタッフ 11名  
合計 76名 (内男性 21名)

(リーダー認定者地区別)

駿東郡清水町 1名 富士市 2名  
静岡市葵区 2名 静岡市駿河区 2名  
藤枝市 1名 島田市 2名 焼津市 1名  
牧之原市 1名 御前崎市 9名  
掛川市 1名 袋井市 1名 磐田市 3名  
森町 1名 浜松市浜北区 1名  
浜松市天竜区 3名 湖西市 4名  
岩手県陸前高田市 1名  
三重県松阪市 1名  
ネットワークスタッフ 9名 合計 46名

【ご協力いただいた皆様】(行程順)

講師：池田 恵子氏 (静岡大学教育学部 教授)

講師：井ノ口 宗成氏

(静岡大学情報学部 講師)

講師：永野 海氏 (中央法律事務所 弁護士)

講師：晝中 一成氏

(御前崎災害支援ネットワーク 理事)

講師：都司 嘉宣氏

(深田地質研究所 客員研究員)

講師：中西 里映子氏

(アレルギー支援ネットワーク 常務理事)

講師：小村 隆史氏

(常葉大学社会環境学部 准教授)

運営協力：御前崎市役所危機管理課・福祉課、  
御前崎市社会福祉協議会

## ◆ 1日目 9月30日 (土)

☆ 1時限目「多様な人々にとって  
安心して安全な避難所運営」

## 池田恵子氏 (静岡大学教育学部教授)



- ・避難所は多様な対応ができる避難所でなければいけない、女性が避難所運営を一緒にしなければ全体的な運営ができないと理解できた。
- ・マスコミでは中々触れることがない、安全面での困難 (DV、身体的暴力、暴言、経済的暴力)、性暴力、ハラスメントなど、困難な状況に対する対応は通常の避難訓練では取り上げられることがなく衝撃的だった。
- ・女性のかかわり方、女性にしか言えない事、女性が持つソフトな感じで接することの大切さ、障がい者が避難所へ行かず、車の中で避難する方が多いことを知ることができた。
- ・防災リーダーはどうしても男性が多いが、その中でも女性が活躍できることが分かった。防災訓練でも要支援者の方を意識して行っていくことが大切だと学んだ。

## ☆ 2時限目「避難所で実施すべきことを整理する」

## 井ノ口宗成氏 (静岡大学情報学部講師)



- ・7つにまとめて整理する。「できるんだな」と

思った。グループの中にも災害時対応の勉強をしている人もあって内容が濃く、素晴らしい仕上がりだった。

- ・QRコードは素晴らしい。要配慮者だけでも事前登録しておくともスムーズな進行ができる。
- ・避難所での問題を解決するためには見える化して、現実と実現すべき状態のギャップを埋めて行くことが大事だと感じた。
- ・事前にチェックリストやアクションカードの整備をし、誰でも対応できる仕組み作りが必要。作成したい。
- ・アクションカード作成は難しい。だからこそ平時に作成しておく必要があると分かった。「Magical 7」色々なことで意識して活用できそう。
- ・チェックリストとアクションカードがあるとないとは全く違って来る。

### ☆3時限目「避難所本部運営と避難者受入注意事項」

落合美恵子氏（御前崎災害支援ネットワーク代表理事）



- ・ヘルプカードを初めて知った。
- ・「障がい者の方も勇気をもって名乗り出て・・・」というお話はすごく勉強になった。障がい者の方が避難者として来てくださり、準備も慌てたりすることもリアルで勉強になった。
- ・流れは分かりましたが、混乱している中でスムーズにできるか難しい。できるだけ支援を求

めてきた人に耳を傾けたいと思う。

### ☆4時限目「避難者受入れ実践及び避難所本部運営訓練」

避難協力者：御前崎市身体障がい者福祉会、御前崎市手をつなぐ育成会、御前崎市精神福祉やすらぎ会、浜松市手をつなぐ育成会 合計31名

避災者受付管理班、総務班、施設管理班、情報班、保健衛生班、要配慮者班、食料物資班、ボランティア受付班（各班長：ネットワーク理事・会員）



#### 《避難者受付管理班》

- ・QRコードの認証は便利だった。個人情報の取り扱いには注意しなければならないが、事前に登録しておけば、本人が自分の事を説明できなくても対応が可能。
- ・初めての事で、ドキドキしながらQRコードがあるカードをパソコンで使った。手書きよりもスムーズで良かった。
- ・いい経験になった。やってみなければ分からないことがたくさんあった。地域の方なら名前や顔を知っていることもあるが、避難者をもれなく確実に把握できるようにしたいと思った。

#### 《総務班》

- ・各班の状況把握や、QRコードで登録された障がい者の避難者の名簿作りなど把握できない時があり慌ててしまった。
- ・本部は避難所内のことだけでなく、対外的に

も、近くの避難所やボランティアセンター等とのつながりを作っておくべき。

・実践では情報の共有の大切さを学んだ。他の班の人にメッセージを届ける時に、窓口には誰もいなくて困った。発災した時はもっと大変なんだろうなと思った。

#### 《情報班》

・情報開示NGの人の対応をどうするか話し合った。「いるか？」と聞かれて「お答えできません」とポーカーフェイスで言えるか心配。

・実際にシミュレーションすることで、現実のあわただしさ（こんなものではないでしょうが）を体験することができた。QRコードの活用が今後どのように進化するのか？とても興味がある。



#### 《施設管理班》

・段ボールで意外と頑丈なイスやベッドができるものと思った。

・ある物を活かして工夫する知識もなければいけない。周りのオペレーションへの意識、気配りを忘れない。

・利用者のための作業、常に改善の余地ありと感じた。

#### 《保健・衛生班》

・仮設トイレを作った。実際、動いてみて使用した際の不具合等を知ることができた。段ボールトイレも自宅で使えることができるので用意しておきたい。

・体験ができてとても良かった。避難所はアイ

ディアのかたまりだと思った。



・簡易トイレの使い方を話し合いで決めることができた。

・利用者から手提げカバンを置く台が欲しいとあり用意することができた。

・避難所で一番大切なトイレについて学ぶことができて良かった。

・狭いところに入ることが困難な方はトイレに苦労されるのではないかと心配になった。

・段ボールでもトイレが作れるのだと今日は知識を得ることができた。



#### 《要配慮者班》

・初めて障がい者の方を誘導して、障害の重い人を誘導するのは難しいと感じた。

・段ボールのベッドに実際に寝ていただいたが